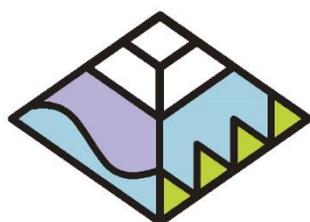


山梨県総合計画

2023 年策定版



YAMANASHI

山 梨 県

2 基本理念

本計画では、前計画に引き続き、本県が目指すべき姿を『県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし』とし、「豊かさ」を量、質、面で築いていきます。

「豊かさの実感」は、県全体の富・利益と、個々人の幸福感を可能な限り密接させることで育まれるものです。

そのためには、行政のみならず、県民をはじめとしたステークホルダーの方々が同じ「目標」に向かい、同じ「想い」で県政に主体的に参画できる環境を整えることが大切です。

人それぞれの幸福感こそが豊かさの尺度であることは言を俟ちません。ならばこそ、本県における「豊かさ」とは「人それぞれで異なる幸福を得るため、それぞれの方が自分なりに選び、歩みを進めていけること」を追求した先にあるべきです。

本県らしい「豊かさ」の追求において、行政が果たすべき役割は2点あります。

1点目は、県民の自由な選択を妨げる要因をできる限り取り除いていくことです。生を受けた環境や生活環境などに左右されず、誰もが「安心」して暮らすことができるようにすることが、幸せと豊かさへの道を選択する土台となるものと考えます。

2点目は、各ライフステージにおいて、「希望」を持って自分らしい道を進むことができるよう、できる限り多くの、そして豊かな選択肢を提供することです。

行政がこの役割をしっかりと果たす過程にあっては、県民はもちろん、市町村、関係団体、民間企業、NPO、教育・研究機関等、県内外を問わず、社会を支える全てのステークホルダーの方々が主体的に参画していただく機会と機運を確保していきます。

また、各々が参加しやすい、全県が一体となるための行政運営を目指し行動します。

豊かさへの道において、行政側の価値と方法押し付けるのではなく、県民の個性に寄り添う姿勢こそが最優先されるべきであり、その精神が実践されてこそ、県民をはじめとしたステークホルダーと共に築く協働が導かれ、県民それぞれの幸福感の「実感」に結実するはずで

そこへの取り組みの方向性では、第1の柱となるのは、「ふるさと強靱化」です。これは、人々を感染症や自然災害の脅威から守り抜くための取り組みを進めていくことはもち

ろんのこと、そこにとどまるものではなく、生活を取り巻く様々な不安や恐怖から解放されるためのセーフティネットを強く、広く張り巡らせる取り組みも包含するものです。

第2の柱となる『開の国』づくりでは、道路交通体系の整備など目に見える有形の「開化」と同時に、多様な背景を持つ様々な人々が集い、それぞれの個性を尊重し、また、尊重されながら、活躍できる社会環境づくりを進めていきます。このような有形・無形の「開化」を出発点として、県内外、双方向の交流も深化・拡大させます。そして、県民はもちろん、山梨県という「開の国」に意欲と期待を持つ全てのステークホルダーの参画を歓迎し、あらゆる可能性にチャレンジしていきます。

これにより、現在及び将来の県民が、多様性のある豊かな選択肢から、それぞれの幸せと豊かさを追求することができるようになるとともに、山梨という地域全体にとっては、多様な個性が「山梨の豊かさづくり」に共に参画する「集合知」の発揮により、一層の豊かさをもたらすことを期待するものです。

今後は、「ふるさと強靱化」という社会基盤の厚みを着実に積み重ね、これを土台として、その上に「開の国」という理念に基づく諸施策を展開することで、生活圏としての「豊かさ共創社会」、すなわち『豊かさをもれなく届けられるふるさと』を構築すべく取り組みを進めます。

また、あらゆる施策の具体化と展開に当たっては、常に「先見性」を反映させ、県民の生活環境の変化を先取りする姿勢も大切です。

行政が豊かさの実感を一人ひとりに届けるために必要なのは、当面の対処と眼前の課題に取り組むことはもとより、常に変化する「将来への想像」を重ねることで、予測を超えた社会経済情勢の変化に対しても施策効果を確保する「先を見据えた施政」と「先を見通した行政」を展開することです。

10年先、20年先に視野を広げて「今」を築く。それが、豊かさへの道を県民の皆様と共に歩む、これからの山梨県のパートナーシップの決意であり、誓いです。

基本理念

本県が目指すべき姿

『県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし』

果たすべき役割

行政

- ① 選択を制約されない
社会の構築
- ② 多彩で豊かな
選択肢の提供



ステークホルダー

県内外の関係者による
主体的な参画

取り組みの方向性

① ふるさと強靱化（自由な選択の制約要因の除去）

- ✓ 感染症に強靱な地域づくり
- ✓ 防災・減災、県土の強靱化
- ✓ 地域経済基盤の強靱化
- ✓ 安全・安心、快適なまちづくり
- ✓ 子育て支援の充実
- ✓ 共生社会化の推進
- ✓ 生活基盤の保障
- ✓ 困難からの脱却・再挑戦に開かれた社会づくり
- ✓ 地域を担う人財づくり

② 「開の国」づくり（多彩で豊かな選択肢の提供）

- ✓ 海と空に開かれた「開の国」交通ネットワークの充実
- ✓ 「自然首都圏」創出のための基盤整備
- ✓ 「上質な空間」づくり
- ✓ 地域を担う人財づくり【再掲】
- ✓ 教育の充実
- ✓ 共生社会化の推進【再掲】
- ✓ 地域経済の収益力向上
- ✓ 文化芸術の振興
- ✓ スポーツの振興

3 2040年の山梨県の将来像

本県が目指すべき姿である『県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし』の実現に向け、社会としての豊かさとともに、個人としての豊かさが得られるような環境づくりを進めていきますが、その具体的な姿として、5つの2040（令和22）年の山梨県の将来像を設定します。また、(6)では、これらの将来像のもとでの本県人口の将来を展望していきます。

(1) 強靱な「やまなし」

- 未知なる感染症が発生した際も、過去のパンデミックから得られた経験や知見を生かした体制づくりが平時から行われていることで、日常生活や社会経済活動を維持できるようになっています。
- 地震や風水害、火山噴火等の自然災害が発生した場合に、被害を最小限にとどめるためのソフト・ハード対策が進んでいます。また、防災への意識が高まり、災害時の情報伝達や避難体制がそれぞれの地域で確立しています。
- 自家消費型の再生可能エネルギーの導入、DXの推進等による業務の合理化・効率化等が進んだことにより、エネルギー、食料品、原材料価格高騰等の県民生活や社会経済活動への影響が最小限にとどまっています。
- 地域の自主防犯活動の実施や、事前の情報提供や相談対応による消費者被害の減少、トレーサビリティの確保による食の安全性の向上等、安全な生活環境が確保されています。
- 身近な自然環境の保全や、地域の歴史や文化に根ざした美しい景観づくりが行われて、誰もが郷土の暮らしに誇りを持っています。
- 孤立や貧困、誹謗中傷など日常生活で抱える課題に対して、地域で活動している団体等と連携し支え合い、必要な支援を行うことが日常となっており、安心して生活できる環境が整っています。

(2) 活力ある「やまなし」

- 子どもたちが、幼児期から良質な教育を継続して受けることができ、将来に希望を持って、生き生きと成長しています。
- 地域全体で子どもを育てる場が設けられ、子育ての悩みなどを気軽に相談できる環

境が整い、夫婦それぞれのキャリアプランを実現しながら、安心して子育てもできています。

- 経済的な豊かさに加え、自分らしく活躍できる場が確保されることにより、将来の生活への懸念から結婚や子どもを持つことをためらっていた人々の不安が解消に向かっています。
- 年齢、障害や疾病の有無等にかかわらず、それぞれの経験やハンディキャップを強みとして、希望に応じた就労や地域活動が可能となっています。
- 外国人住民が、ライフステージに応じた必要な支援を受けられる体制が構築されることにより、地域に円滑に溶け込み、地域の行事への参加など、地域社会の一員として自分らしさを発揮できる人間関係が構築されています。
- 性差や社会的役割に対するアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見・思い込み）が解消され、あらゆる人たちが多様性を理解・尊重し、自分らしく活躍できる環境が整っています。
- 病院間での画像診断や遠隔による手術支援等、医療機関におけるデジタル化が進み、より良い医療の提供が可能になるとともに、ウェアラブル端末等の新しい技術を活用して日々の健康観察が行われるなど、県民が地域で必要なサービスを受けることができる体制が整備されています。
- 介護を必要な人が必要な時に介護施設に入所でき、子は親の介護のために離職することなく働くことができる、世代を超えて安心して生活できる環境が整っています。
- 全ての人々が、それぞれの状況に応じて、支える側、支えられる側となって、身近な地域で支えあいながら、多面的な関わりの中で誰一人孤立することなく共生するなど、地域コミュニティが強靱化しています。
- 全ての働く人を対象としたリスキリングの機会が提供され、キャリアアップできる環境が整っており、働く人の能力向上が企業の収益向上につながり、働く人の賃金アップに還元される経済の好循環が構築されています。

(3) 開かれた「やまなし」

- 中部横断自動車道が開通し、太平洋から日本海までつながるとともに、新山梨環状道路など県内各地域間を結ぶ広域道路ネットワークが整備され、県内のどこにも容易にアクセスできるようになっています。
- リニア中央新幹線により東京圏、名古屋圏、大阪圏と結ぶ「日本中央回廊」が形成

され、世界最大の大都市圏の一部となるとともに、広域道路ネットワークや日常生活に密着した幹線道路等により、県内各地がリニア駅を經由して国内外と容易に交流できるようになっています。

- 移動通信システムを活用した手軽に利用できる自動運転による公共交通が普及し、自分で運転せずに日常生活を送ることが可能となり、高齢になっても不自由なく安全に移動できるようになっています。
- 国内最高の観光リゾート地と首都圏機能を融合させた世界に類を見ない地域「富士五湖自然首都圏」が、希望するワーク&ライフスタイルがかなう地として認知され、域外からの人・物・知識が活発に往来・循環・交流し、絶えず新たな価値が創造されていく環境を生み出しています。
- 移住者等が、交流や体験を通じてスムーズに山梨の生活に定着することができるとともに、コワーキングスペースやサテライトオフィス等で地域住民と課題解決に取り組むことで、地域コミュニティの活性化が図られています。
- テレワークでの自宅勤務やサテライトオフィスでの業務、更には複数の職を兼ねるなど、一人ひとりのライフスタイルやライフステージに応じて、時間や場所にとらわれない働き方が可能となり、多様な働き方が新たなイノベーション創出にもつながっています。
- 豊富な水資源や太陽光を活用した再生可能エネルギーが普及し、原油価格の影響を受けにくく、温室効果ガスを排出しないエネルギー利用が進むとともに、再生可能エネルギーの余剰電力を活用したCO₂フリー水素の利活用が進んでいます。
- 環境に配慮した生活様式や事業活動が定着するとともに、公共施設・民間施設・住宅などへの県産木材の利用が進み、豊かな自然環境の保全のための取り組みと、適正な活用がバランス良く進み、持続可能な社会づくりが一層進んでいます。

(4) 躍動する「やまなし」

- 子育て世代やシニア世代、障害者等、それぞれの生活事情に合わせた勤務ができ、多様な働き方が共存するとともに、お互いの個性や生活を尊重しあえる職場が当たり前となっています。
- 子ども一人ひとりの興味・関心や能力に応じた「子ども中心の学び」が行われ、子どもが協働しながら、主体的・対話的に学び続けることができるようになるとともに、失敗を恐れずに挑戦する意欲が高まっています。

- DX の進展により、学びにおける時間や距離等の制限が取り払われ、民間リソースの活用や外国語での実践的なコミュニケーションが充実し、各分野の専門家による授業が受けられるようになるなど、学びの機会が充実しています。
- 発達特性や家庭環境に課題がある場合などには、教員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家がチームとなって対応する体制が整えられています。
- 多様な主体や地域住民等によるネットワークが構築され、幼児教育・小中高等学校・大学・企業・地域が連携・協働して教育活動に取り組むことにより、地域ならではの学びの機会が提供され、新たな地域の担い手が育成されています。

(5) 先進地「やまなし」

- 豊かな自然環境に恵まれながら、リニア中央新幹線により東京圏と 30 分以内で結ばれている立地条件を生かして、医療機器関連産業や水素・燃料電池関連産業が集積するとともに、IoT やヘルスケア関連のベンチャー企業等が立地しています。
- ぶどうやももなどの果実をはじめとする農畜水産物、県産 FSC 認証材などの木製品、ジュエリーや織物などの地場産品について、デザイン性の向上等によって更なる高付加価値化・ブランド化が進んでいます。また、次世代社会を創造する未来志向の一体的・戦略的なプロモーションによって、その魅力が広く浸透しており、コーポレートブランド「やまなし」¹の価値が向上し、国内外の需要を取り込むとともに、本県を訪れる契機となっています。
- 建設業、農林業、サービス業等あらゆる分野において、AI やビッグデータ、ドローン、自動運転等の活用による DX が進み、業務効率化により担い手不足が解消するとともに、人間と機械との協業により、ものづくりやサービスが高度化しています。
- 県内各地の観光資源が磨き上げられ、「より豊かな観光体験」ができるようになるとともに、山梨ならではの美酒美食を提供する多彩な料理店が集積し、感動体験を求める観光客で県内各地が賑わっています。
- 地域に根ざした特色ある文化芸術の鑑賞活動や創作活動の機会が充実し、本県独自の文化芸術が発展的に継承されるとともに、クリエイターとの交流によるシナジー効果の発揮により、新たな文化芸術的価値が生み出されています。

¹ 山梨全体を対象とした「地域そのものを示すブランド」

- 誰もが生涯にわたって豊かなスポーツライフを楽しむとともに、スポーツを通じてコミュニティに活力をもたらす活動等が盛んに行われるなど、地域の活性化が図られています。また、自然環境や観光資源など本県の強みを生かした多彩なアウトドアアクティビティ等が充実し、国内有数のスポーツを楽しめる地としての知名度が高まり、本県でスポーツを楽しむために国内外から多くの人々が訪れています。

第3章 アクションプラン

1 基本理念実現のための政策体系

本計画においては、「ふるさと強靱化」、「『開の国』づくり」を2つの《基本戦略》とし、本県の将来像の実現に向けた《戦略》ごとに、戦略のねらいを実現するための《政策》と、その具体的な取り組みである《施策》に体系化して、取り組み内容や工程について整理します。

基本戦略Ⅰ ふるさと強靱化

戦略1 強靱な「やまなし」を創る道

- 政策1 感染症に強靱な地域づくり
- 政策2 防災・減災、県土の強靱化
- 政策3 地域経済基盤の強靱化
- 政策4 安全・安心、快適なまちづくり

戦略2 活力ある「やまなし」を育む道

- 政策1 子育て支援の充実
- 政策2 共生社会化の推進**
- 政策3 生活基盤の保障
- 政策4 困難からの脱却・再挑戦に開かれた社会づくり
- 政策5 地域を担う人財づくり

基本戦略Ⅱ 「開の国」づくり

戦略3 開かれた「やまなし」へ集う道

- 政策1 海と空に開かれた「開の国」交通ネットワークの充実
- 政策2 「自然首都圏」創出のための基盤整備
- 政策3 「上質な空間」づくり

戦略4 躍動する「やまなし」へ進む道

- 政策1 地域を担う人財づくり【再掲】
- 政策2 教育の充実
- 政策3 共生社会化の推進【再掲】**

戦略5 先進地「やまなし」を叶える道

- 政策1 地域経済の収益力向上
- 政策2 文化芸術の振興
- 政策3 スポーツの振興

戦略2 活力ある「やまなし」を育む道

【戦略のねらい】

ライフステージに応じた子育て支援、誰一人取り残されることのない包摂性のある社会づくり、医療・福祉に関する不安の解消を通じた活力ある地域づくり、地域を担う人材育成を目指し、次の政策を実施します。

政策1 子育て支援の充実

政策2 共生社会化の推進

政策3 生活基盤の保障

政策4 困難からの脱却・再挑戦に開かれた社会づくり

政策5 地域を担う人財づくり

戦略4 躍動する「やまなし」へ進む道

【戦略のねらい】

DX など産業構造の変化に対応できる人材を育成するとともに、誰一人取り残されることがなく、必要な教育を受けることができ、希望と生きがいにあふれ躍動する環境づくりを目指し、次の政策を実施します。

政策1 地域を担う人財づくり【再掲】

政策2 教育の充実

政策3 共生社会化の推進【再掲】

政策2 共生社会化の推進

【政策の基本的な考え方】

人口減少が続く社会で、支える側の人間をどれだけ増やせるかということが非常に大切です。自分ができるところで人を支える、できないことは人に支えてもらうという形の共生社会をつくるのが地域社会の強靱化にもつながります。

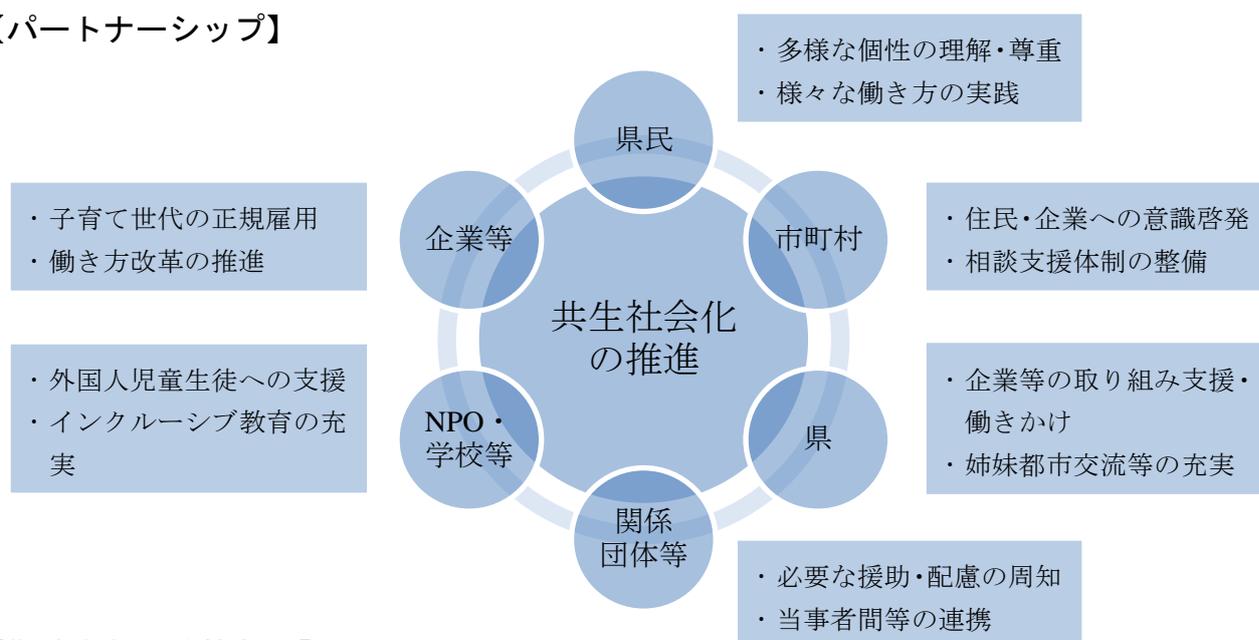
特に、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮できる環境づくりにより、自分らしく活躍できる女性の増加や、若年女性を中心とした本県への定住の促進といった効果も期待できます。

このため、男女が協力して子育てを行いながら仕事でも活躍できる働き方を実現できるよう、性別役割分担意識の解消など男女共同参画社会の実現に向けた意識改革や、男性の育休取得促進など企業等の取り組みへの支援・働きかけを行い、誰もが働きやすい職場環境づくりを進めます。

また、年齢、性別、障害や疾病の有無、国籍等にかかわらず、それぞれの希望に応じて、就労や地域での活動が可能となり、社会の担い手として活躍することができるよう、就労支援や地域生活支援、生活と仕事の両立支援等の取り組みを進めます。

さらに、外国人住民が不安なく生活・活躍できるよう支援するとともに、子どもの頃から外国人と慣れ親しむ機会の提供等を通じ、多文化共生を推進します。

【パートナーシップ】



【期待される政策効果】

年齢、性別、障害や疾病の有無、国籍等にかかわらず、それぞれの希望に応じて、就労や地域での活動を行い、誰もが活躍できる環境が実現しています。